

国語科学習指導案

指導者 さくら級
非常勤職員

1. 日 時 2009年2月5日(木) 5校時
2. 場 所 プレイルーム
3. 児童数 男2名、女3名 計5名
4. 単元名 「たからさがし」(「読む」活動を中心に)

5. 単元について

(単元観)

本学級では、在籍する児童の実態を考慮し、知的障害者を教育する養護学校の学習指導要領を参考に、教育課程を編成している。知的養護学校小学部学習指導要領の国語科の目標は『日常生活に必要な国語を理解し、表現する能力と態度を育てる』である。

在籍児童、5名中4名はひらがなを読むことができるようになり、簡単な文を読んだり、2～3音節の単語を読んだりすることができるようになってきている。しかし、実生活の中にある文字を読もうとしても漢字やカタカナが混ざっているのを見ると、それだけで抵抗を示してしまうことがあり、なかなか読むことを自分なりに楽しんだり、その力を実生活の場で活用したりする機会が少ない。

本単元では、ひらがなの単語を読む力を育てるために、写真や絵カードを使って、学習する活動を繰り返しおこなっている。その積み重ねにより、一音ずつのひろい読みから、ひとまとまりの語句としての読みへと発展できるようにしていきたいと考えている。

また、身近な生活の中にある具体的な題材を取り上げ、「宝さがし」のようにゲーム化することによって、読めることの楽しさを味わっていただけるのではないかと考えた。読めることが宝へのヒントにつながるというゲーム性は、体を動かし、考えることが必要となる。興味・関心を高め、読める楽しさを味わい、日常生活に必要な文字を理解する力を身につけさせたいと思う。

(児童観)

名前	学年	性別	児童の特徴 (自力でできる◎ ある程度○ 難しい△)					
			ひらがな 読み書き	カタカナ 読み書き	簡単な 会話	発音の 明瞭さ	指示 理解	着席 行動
A			○	△	◎	○	○	◎
B			○	△	○	○	○	○
C			◎	○	◎	○	◎	◎
D			◎	◎	◎	○	◎	◎
E			△	△	△	△	△	△

実態に差はあるが、絵本の読み聞かせやビデオを見たりすることには、興味を持って取り組み、楽しむことができる。

E児は (略)

A～Dの4名の児童は、(略)

一斉指導の中で互いに刺激し合いながら、読みの学習を深めていきたい。

(指導観)

児童の実態から、知的級・情緒級の特別支援学級のテーマを“ことばの世界を広げて、生きる力につなげていく”と設定した。

フィンランドメソッドを取り入れた活動としては、知的学級では絵本の読み聞かせの時に次を予想させること、情緒級では「赤いもの集め」などをおこなっている。「なぜ?」「どうして?」という発問に答えるだけの基礎・基本の力が十分身につけているとは言えず、フィンランドメソッドが活用できていない現状である。

発語のない児童には、自分の要求を動作で表現したり、集中して課題に取り組む力を身につけさせたい。そのために体育や音楽では体全体を動かす課題に、国語、算数では、「自立活動」として色や形の弁別や指先の巧緻性を高めるなどの課題に取り組んでいる。決められた課題に短時間でも集中して落ち着いて取り組むことができるようにさせたい。

語彙が増え、文字を覚え、文が読んだり書けたりできるようになった子どもたちでも、感情をコントロールすることが苦手だったり、獲得した力を実生活で活用することが難しかったりするという実態がある。ひらがなやカタカナといった基本的な力を身につけさせながら、それをさまざまな生活や学習の場で活用できる「他へ転移できる力」を習得させたい。

6. 単元目標

A B C D / ○身近な物の名前のひらがなを読み、何が書かれているかをつかむことができる。

E / ○情緒を安定させ、同じ物集めなどの課題に取り組むことができる。(自立活動)

知的養護学校小学部学習指導要領「読む」の内容

- | | |
|-----|--------------------|
| 1段階 | 教師と一緒に絵本などを楽しむ。 |
| 2段階 | 文字などに関心を持ち、読もうとする。 |
| 3段階 | 簡単な語句や短い文などを正しく読む。 |

7. 単元の評価規準

観点	評価規準
関心・意欲・態度	A B C D / 文字を読むことに関心を持ち、楽しく学習に取り組もうとしている。 E / 課題に関心を持ち、15分程度学習に取り組もうとしている。
読む	A B C D / 簡単な単語や短い文を読むことができる。 E / 身近な物で同じ物がわかる。

8. 単元指導・評価計画（全16時間）

児童	次	時	ねらい	学習活動	評価規準（方法）
A B C D	1	2	身近にある物の名前を知る	・学校生活の身の回りにある物を絵カードや写真で見て、それが何かを言う。	【関】身近な物の写真に興味を持ち、物の名前を言おうとしている。
	2	1 2	身近にある物の名前を読む	・ひらがなやカタカナで書かれた身近な物の名前を読む。	【読】文字を正しく読んでいる。
	3	2 (本時)	宝探しゲームを楽しむ	・文字カードを読み取って、宝を探す	【読】単語や短い文を読みとることができる。
E	1	1 6 (本時)	同じ物がわかる	・同じ物を集めるなどの課題に取り組むことができる	課題の意味がわかり、弁別ができる。

9. 本時の目標

- A B C D / 文字を読んで、何が書かれているかを理解しようとしている。
- E / 洗濯ばさみなどの具体物を容器に分けて入れようとしている。

10. 本時の実現状況を判断する際の具体的な子どもの姿

観点	児童	A	B	C
読む	A B C D	・文字を正しく読みとることができる ・宝さがしを楽しみ、進んでゴールまでいこうとしている。	・文字を読み取ることができる ・文字を読んで宝を見つけようとしている	・文字の読み取りが不十分である。 ・宝を見つけようとしていない
	E	・同じ物を容器に入れることができる	・同じものがわかる	・同じ物がわからない

1 1. 本時の展開

学習活動と内容		指導上の留意点	評価（方法）
(ABCD 児)	(E 児)	(ABCD 児)	(ABCD 児)
1. 「あいうえおにぎり」の音読をする	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・さくら級へ移動 	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉に読んだ後、一人ずつ読む場面もつくって、それぞれが自信を持てるようにする。 ・「次はどうなるかな」など声かけをしながら何に変身するか次の場面を予想させながら読む。 ・文字を読んで教師と一緒に声を出すようにさせる。 ・身近な物の文字カードを使い、読むことへの自信をつけさせる。 ・手がかりの文字は児童の実態に応じたものとする。 AB ～読める文字を使ったひらがなの単語、 CD ～「～のうえ」などの短い文 	<p>【読】正しく文字を読み取ることができる。</p> <p>△困難な場合には文字を一文字ずつ見せたり、教師と一緒に読んで確認したりする。</p> <p>【関】手がかりの文字を読み取り、宝を見つけようとしている。</p> <p>△声かけやヒント、友だちの励ましなどで、意欲を持たせるようにする。</p>
2. 絵本「へんしんトイレ」の読み聞かせを聞く	<ul style="list-style-type: none"> 1. 洗濯ばさみとボールペンや棒を容器に分けて入れる。 (弁別) 		
3. 文字カードを読む	<ul style="list-style-type: none"> 2. フィルムケースに棒を入れる (一対一対応) 		
4. 宝さがしゲームをする	<ul style="list-style-type: none"> 3. おはじきを容器に入れる (指先の巧緻性を高める) 		
5. まとめ			